

## 子どもの知性が働くとき

知性と聞くと、とても難しい知性を得る事や勉強することを思い浮かべますが、実はもっとずっと身近に思えることが、子どもの知性です。

モンテッソーリは「知性の働きを一言で言うなら、それは区別すること」と言いました。

子どもは同じ物を見つけると、それを他のものから「区別」します。まず「同じ」を発見したことに喜び、そこから「分ける」「集める」「比べる」「合わせる」へと自発的に活動を発展させていきます。子ども達の実際の活動を少し紹介します。



**葉を集める**



**同じ形を集める**



**同じ色を集める**



**頭と胴を分ける**



**同じ数で分ける**



**大きさを比べる**



**濃淡を比べる**



**名称と同じ部分を区別し分ける**

大人からすると何気ない事ですが子どもからすると大きな発見！子ども達は発見から活動を発展させ、「手」を使って分けたり集めたりしながらしながら、何度も繰り返し思う存分活動を行います。この時期にたくさん手を使い、体を動かしながら知性を鍛えた子どもは、「自分で学び取る能力」を手に入れます。その知性を働かせるときに、子どもたちは深い充実感を味わい、豊かな心と平和な心を育てていくのです。

スマートフォンやゲーム機ばかりでこの時期を過ごすのはもったいない！まずは、日常生活の中から子どもの興味や、知性の働きを発見する事から一緒に始めてみませんか。